

平成 29 年度入ゼミ用

国際総合学類ゼミシラバス集

平成 29 年度入ゼミ用 国際総合学類ゼミシラバス集 総目次

国際学ゼミナール I, II 担当教員一覧	1
国際政治・国際法分野	2
経済学分野	13
文化・社会開発分野	23
情報・環境分野	31

国際学ゼミナール I, II 担当教員一覧

国際政治・国際法分野	文化・社会開発分野
赤根谷 達雄 岩崎 美紀子 大友 貴史 Charles Edward COVELL Timur DADABAEV Leslie TKACH-KAWASAKI 中村 逸郎 潘 亮 東野 篤子 毛利 亜樹 吉田 脩	井出 里咲子 木下 太志 柴田 政子 Justin CHARLEBOIS 朱 藝 関根 久雄 前川 啓治 山田 亨
経済学分野	情報・環境分野
柏木 健一 黒川 義教 Jeet Bahadur SAPKOTA 田中 洋子 内藤 久裕 中野 優子 Martin POHL Abu Girma MOGES Zhengfei YU	奥島 真一郎 亀山 啓輔 蔡 東生 白川 直樹 鈴木 大三 高橋 伸 Simona Mirela VASILACHE 松原 康介 渡邊 真一郎

※各分野内の教員名は五十音順。

* シラバスが未掲載のゼミの概要等に関しては、担当教員に問い合わせてください。

国際政治・国際法分野

国際関係論ゼミ

筑波大学人文社会系教授 赤根谷 達雄（あかねや たつお）

1. ゼミナールの概要

・国際関係や日本の政治・外交、安全保障にかかわるトピックを扱っています。これまでゼミ生の多くは、日本の政治・外交・安全保障や、英米、オーストラリア等の英語圏、中国・朝鮮半島に関連するテーマ（安全保障、政治経済、歴史・文化、社会問題）を選んでいきます。

・学習の目標は、研究手法を学び、優れた独立論文や卒業論文を執筆することです。ゼミでは、プレゼンテーションの仕方を学びます。質疑応答や建設的議論を通じて仲間どうし切磋琢磨していくことが求められます。

・習得できるスキル：国際政治学の分析手法を学ぶと同時に、テーマの設定と学術研究の仕方、論文執筆の作法を修得します。

・使用するテキストは、ゼミ参加者の関心を踏まえたうえで決定します。

・単位取得条件や成績評価基準

出席が最も重視されます。（欠席の場合、要連絡）

質疑応答や討論など、ゼミでの活発な貢献が、評価基準となります。

2. 開講曜時限

ゼミの開講学期：春 ABC、秋 ABC （C 期間は、適宜、集中して行います。）

曜日：火曜、時限：6 時限~7 時限、教室：3K220

3. 履修要件・入ゼミの方法・選抜スケジュール

・コンタクトの方法：e メールによる（akaneyatt@gmail.com）

・おおよその選抜スケジュール

10 月 5 日-11 月 24 日：教員訪問期間(要メール連絡)

11 月 3 日-12 月 8 日：オープンゼミ(参加自由，詳細は web 参照)

12 月 15 日：教員へのゼミ参加希望表明締切日

12 月 15 日-2 月 1 日：教員による選抜期間

2 月 2 日：選抜結果通知

4. その他

・不明な点は、メールで相談してください。面談にも応じます。

岩崎美紀子ゼミ（比較政治学）

筑波大学人文社会系教授 岩崎 美紀子

1. ゼミナールの概要

The Federalists を題材に発表と議論を行う

2. 開講曜時限

水曜日 15:15～

3. 履修要件・入ゼミの方法

「比較政治学」「カナダ政治」を履修していること

『「知」の方法論』の3つのメソッドを理解していること

大友貴史ゼミ（国際関係論）

筑波大学人文社会系准教授 大友 貴史

1. ゼミナールの概要

国際関係論に関する文献を読み、様々な視点から主に国際安全保障に関するテーマについて議論をします。著書や論文の多くはオリジナル（英語）で読みます。発表を通して、みなさんの独立論文、卒業論文作成の準備も行います。

2. 開講曜時限

予定 春 火曜 10:10-12:10

秋 木曜 10:10-12:10

3. 履修要件・入ゼミの方法・選抜スケジュール

履修要件：「国際政治学(International Politics)」を履修していること。

入ゼミの方法：関心のあるテーマについてメモ（A4 で 1 枚）の提出。面談。

これらをもとに決めます。

10 月 12 日～12 月 21 日：教員訪問（面談）、ゼミ見学期間（事前にメール連絡の上）

2 月 1 日：関心テーマ締切日（ohmoto.takafumi.gf@u.tsukuba.ac.jp までお送り下さい。）

2 月 8 日：結果をメールで通知

4. その他（例：連絡先、個人 HP・ゼミ HP のリンク等）

ohmoto.takafumi.gf@u.tsukuba.ac.jp

Seminar in Law and Politics I and II

筑波大学人文社会系准教授 Charles Covell

1. ゼミナールの概要

Overview/Description: The Seminar is intended to provide intensive supervision of students in the preparation of their Graduation Thesis in the general area of law and politics.

2. 開講曜時限

Term/Day/Time/Venue: The Seminar will take place in my office, 3K321, and will be open throughout the academic year and with the dates and times for the supervision of individual students being determined through mutual agreement.

3. 履修要件・入ゼミの方法・選抜スケジュール

Requirements: All students are welcome to attend the Seminar, and there are no conditions laid down in advance for the purposes of their acceptance. Students who wish to attend the Seminar should contact me direct through email so as to make a personal appointment.

Students wishing to attend my Seminar, or who are interested in doing so, are asked to contact me direct through email (charlescovell@yahoo.com) in order to arrange an appointment for a personal interview with me in my office (3K321), at any time during the period running from 14 October 2016 to 26 February 2017. Students will receive formal notification of their selection for the Seminar immediately subsequent to their interview on an individual basis, with the selection being conditional on the mutual agreement of the students concerned and myself as relative to their research interests and their intentions with respect to the Graduation Thesis.


4. その他 (例: 連絡先、個人 HP・ゼミ HP のリンク等)

Contact Details: Students should contact me through the following email addresses:

charlescovell@yahoo.com

covell.charles.fp@u.tsukuba.ac.jp

タック 川崎 ゼミ Tkach-Kawasaki Seminar 2016-17	
Leslie Tkach-Kawasaki, Associate Professor, Grad. School of Humanities and Social Sciences	
Contact information (連絡方法) tkach (at) japan.email.ne.jp (at は@)	

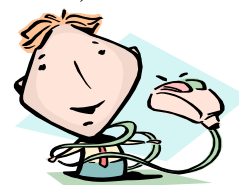
<p>ゼミナールの概要 / Introduction</p> <p><u>Seminars:</u> New Media & Politics Seminar I and II</p> <p><u>Subject Specification:</u> New Media Studies, Internet Studies, Internet Research Methodology, Political Communication</p> <p><u>Subject Specialization:</u> Website content analysis; methodologies in content analysis and comparative analysis of new media applications (i.e., Twitter, Facebook, blogs, Youtube, and social media networks), using the Internet for research purposes.</p>	
---	--

Objective/Description: The ゼミ will be conducted in both semesters in the 2016-17 academic year. We will discuss practical research design and methodological approaches, and we will also do readings and different approaches to researching the Internet and how people use it.

ゼミ Day/Time: Mondays, Period 2 (but could be shifted due to students' class schedules)


Important Points:

1. Readings will be in English and Japanese.
2. You can write your 独論 and/or your 卒業論文 in English or Japanese.
3. ゼミ discussion will be in English and Japanese.
4. ゼミ presentations will be in English and/or Japanese.



ゼミに入る方法: (1) Interview with the instructor in October or November (please contact her by email); (2) Open attendance at the seminar; (3) Decision by instructor (student will be notified)

必要となる予備知識/Prerequisites: There are no prerequisites, but students should be prepared to learn how to use basic statistical methods (through Excel or SPSS), bring their notebook computers or smartphones to the ゼミ, and be unafraid of making presentations in front of a small group.

<p>テキスト/Textbooks and materials:</p> <p>Will be assigned according to students' research topics and interests.</p> <p>単位取得要件・成績評価基準/Requirements and grading:</p> <p>Grading is based on ゼミ participation (attendance and actual performance/attitude during the seminar).</p>	<p><i>Schedule:</i></p> <p>Oct. - Nov. Contact the instructor by email for an interview about your research.</p> <p>Nov. - Dec. Open attendance at the seminar.</p> <p>Dec. Deadline for applications by e-mail.</p> <p>Jan. Selection period by the instructor and notification of selection results.</p>
	<p>Past topics of student 独論 and 卒業論文</p> <ul style="list-style-type: none"> • "Youtube Beauty Gurus" (2011-12) • "Malaysian Exchange Students in Japan" (2011-12) • 「橋本徹大阪市長に関する報道の内容分析」 (2012-13) • "Language and Identity" (2012-13) • 「情報社会における就職活動」 (2013-14) • 「海外生活におけるアイデンティティの維持と変容—在独日本人と在日ドイツ人の比較」 (2013-14) • "Branding of Disaster Relief Efforts: A Case Study of the 2011 Japan Earthquake and Tsunami" (2013-14)

中村逸郎ゼミ（ロシア政治）

筑波大学人文社会系教授 中村 逸郎

1. ゼミナールの概要

ロシア政治、ロシア外交政策、および日ロ関係について考察します。基礎的な文献から段階的に高度な文献（ロシア語の書物を中心）まで読み込んでいきます。その過程でゼミ受講生には自分の研究テーマを発見し、独立論文、卒業論文の執筆に着手していくことを求めます。

2. 開講曜時限

毎週金曜日の4、5時限に開講します。教室は3K426.

3. 履修要件・入ゼミの方法

ロシア語を履修しておくことを強く望みます。

ゼミ履修を希望する学生には面接を実施します。面接は12月1日～12月8日のあいだに実施します。面接希望者は、メールで連絡ください。

4. その他（例：連絡先、個人HP・ゼミHPのリンク等）

潘亮ゼミ（日本外交）

筑波大学人文社会系教授 潘 亮

1. ゼミナールの概要

明治以降、今日に至る日本の対外関係の形成過程とその歴史的背景を国際関係史の文脈で議論する。近現代国際社会における日本の位置づけについて独自の理解と発想を養うことを目的とする。具体的な問題関心について、歴史的なものであるという制限を設けないが、昨今の日本の対外関係に関する諸問題を研究する場合、歴史的な背景も意識する広い視野からテーマに取り組む習慣を養成したい。ゼミは外交関係の専門書の講読やフリーディスカッションなどが中心となっている。

2. 開講曜時限

原則的に毎週水曜日 16:45～18:00

3. 履修要件・入ゼミの方法

履修条件：「日本政治」または「現代日本外交史」を履修すること＋日本近現代史と世界史に関する基礎的知識を有すること

入ゼミの方法： 問題関心に関するメモ（A4用紙1枚）を提出し、それに基づいて面接を受ける。

4. その他（例：連絡先、個人HP・ゼミHPのリンク等）

leon@dppe.tsukuba.ac.jp

5. ゼミ生選抜日程

10月19日～12月9日：教員訪問期間（要メール連絡）

10月19日～1月25日：ゼミ見学期間（メール連絡の上、参加自由）

2月18日：ゼミ参加表明締切日

2月25日：選抜結果通知

東野篤子ゼミ（ヨーロッパ国際政治）

筑波大学人文社会系准教授 東野 篤子

1. ゼミナールの概要

欧州連合（EU）や北大西洋条約機構（NATO）などを中心としたヨーロッパの国際政治を学ぶ。具体的には、1 学期中に国際政治学全般およびヨーロッパの国際政治に関する代表的な文献を読み、レジュメ報告をもとに討論を行う。2 学期以降は各自の問題意識を養いつつ、独立論文および卒業論文作成に向けた準備をすすめていく。

2. 開講曜時限

平成 28 年度は長期出張のためゼミを募集しません。次回の募集は平成 29 年度となります。

3. 履修要件・入ゼミの方法

（以下参考までに、平成 27 年度の履修要件等を掲載しておきます）

平成 26 年度春 C 開講の「ヨーロッパの国際政治」を履修・単位取得済みであり、かつ平成 26 年度秋 AB 開講の「ヨーロッパ政治」を履修していること。

また、ゼミでは EU および NATO 関連の文献を大量に読み込む予定である。課された文献をすべて真面目に読み、積極的に討論に参加する意思のある学生の皆さんの参加を歓迎する。

なお、1 学期中にゼミで確実に扱う文献を以下に挙げておく。入ゼミを検討する学生は必ず目を通し、自分の関心に合う内容かどうか、確認しておいていただきたい。

- ・ 小笠原高雪他編『国際関係・安全保障用語辞典』ミネルヴァ書房、2013 年（必携とする）
- ・ 中西寛・石田淳・田所昌幸『国際政治学』有斐閣、2013 年
- ・ 森井裕一編『ヨーロッパの政治経済・入門』有斐閣、2012 年

選抜スケジュールは以下の通り。

- 10 月 22 日-12 月 9 日 : 教員訪問、オープンゼミ開催期間(必ず事前にメールで連絡のこと)
- 12 月 16 日 : 教員へのゼミ参加希望表明締切日
- 12 月 16 日-2 月 17 日 : 関心のあるヨーロッパ国際関係のテーマにつき、A4 1 枚にまとめたレポートを教員までメール送付。必要に応じて面談を実施。
- 2 月末まで : 選抜結果通知

4. その他

連絡先 : higashino@dpipe.tsukuba.ac.jp

毛利亜樹ゼミ（中国政治、東アジア国際政治）

筑波大学人文社会系助教 毛利 亜樹

1. ゼミナールの概要

このゼミの目的は、中国政治と国際政治に対する観察眼を鍛えることです。インターネットが普及し、中国や東アジアの情報はあふれています。しかし、断片的な情報を体系化するには、思考の枠組みを持つ必要があります。この思考枠組みを豊かにするには、中国政治や東アジアの新しい情報だけでなく、その研究手法も注視する必要があります。どうやって研究すればよいのか。それが明確になれば、理解する喜びは大きな大学時代の財産になることでしょう。

具体的には、ゼミ生が各自の研究を行うために、3つの作業を行います。

- 1) 面白いと思うトピックを見つける、
- 2) それがどのように研究されてきたかを検討する、
- 3) 未検討の課題や既存仮説の問題点を見つける、
 - 1、研究手法の検討：分析的な考え方、論文の書き方の作法
 - 2、テキストの輪読：中国政治、国際政治の研究書

これまでに使用したテキスト

アーロン・フリードバーグ（佐橋亮監訳）『支配への競争』日本評論社、2013年。

リチャード・C・ブッシュ（森山尚美・西恭之訳）『日中危機はなぜ起こるのか』柏書房、2012年。

- 3、各ゼミ生の研究テーマに基づく報告→研究計画と執筆の演習。

さらに、ゼミ合宿では中国の古典を取り入れたグループワークを行います。秋学期には他大学とのゼミ交流も実施しています。

2. 開講曜時限

毎週金曜日 11:30-13:30、3K126 ＊「春 AB」、「秋 AB」＋ゼミ合宿（予定）

3. 履修要件・入ゼミの方法

・ただいま産休中のため、今年度はゼミ見学を実施できません。ゼミに関心のある方はメールを下さい。ご質問にお応えします。ゼミ生の研究テーマや雰囲気等もお伝えしたいと思います。

毛利亜樹 aki-mouri.fu@u.tsukuba.ac.jp

・入ゼミ希望の締切：12月25日(金)まで、メールにて受け付けます。

選考は特にしませんので、関心のある方は是非、門を叩いて下さい。

4. その他（例：連絡先、個人HP・ゼミHPのリンク等）

・「東アジア国際関係史」「現代中国研究」や、その他国際政治にかかわる他の講義を併せて履修し、自分なりの理解を深めておくこと。

国際法ゼミの募集について

人文社会系 吉田 脩（国際総合学類）

本ゼミは国際法全般について幅広く学ぶことを目的としています。また、原則として、3年次の履修者には併せて「独立論文」も執筆していただくこととなります。

春 AB 学期には、国際法学の基礎のみならず、国際関係学や法学のアプローチについて、理解を深めます。秋 AB 学期には、ゼミ生による発表・報告を中心に展開する予定です。

対象者：国際総合学類 3 年次生（「国際法概論」の既修者に限る。）

募集人員：若干名

応募手続：

11 月 24 日（木）から 30 日（水）の間で受け付けますので、「志望動機」（様式は自由）を電子メールの添付ファイルにてご提出ください

（yoshida.osamu.gn@u.tsukuba.ac.jp）。

書類審査の合格者につき、12 月末までに面談を行います。

なお、早期の審査を希望なされる方は、別途、電子メールにてご相談ください。

経済学分野

柏木ゼミ（中東・北アフリカ経済研究）

筑波大学人文社会系准教授 柏木 健一

1. ゼミナールの概要

本ゼミは、発展途上地域の社会・経済に興味のある学生を対象とする。また、研究のアプローチとしては開発経済学の枠組による経済分析を中心とする。発展途上国の中でも特に、中東・北アフリカ諸国の経済発展、構造変化、社会変容、制度変化などを分析することで、同地域の経済発展・安定のメカニズムを検証する作業を進めたいと考えている。ただし、参加者の問題意識、関心等に沿った幅広いゼミを展開したい。本ゼミでは、具体的には、①開発経済学や中東・北アフリカの経済に関する書籍、論文等を読み、討論、意見交換等を行うこと、②独立論文・卒業論文の中間報告、議論等を行うことを通じて、学生自身が中東・北アフリカの経済研究に関する問題を設定し、解決の具体的提案ができる能力を養うことを目指す。

2. 開講曜時限

- (1) 春 AB および秋 AB：火曜 5 限
- (2) 春 C および秋 C：集中（火曜 5 時限に実施）

3. 履修要件・入ゼミの方法

- (1) 必要となる予備知識：「北アフリカの経済と社会」を履修していることが望ましい。参考書等を自分で読んで自主学習を進めるなど意欲的に学習をすすめる学生を大いに歓迎する。
- (2) 参加要件：特に定めない。ゼミ参加を希望する場合、2017 年 2 月 17 日（金）までに、①から③を含めて、A4×1 枚にまとめて、email で提出すること。
 - ①独論で取り組む研究に関する問題意識とその概要
 - ②3 年次以降に長期の休学・留学予定の有無
 - ③3 年次までに履修した（している）経済系の科目名

4. その他

- (1) 実施形式：書籍・論文等の内容報告、独立論文・卒業論文の進捗状況報告等
- (2) 出席：ゼミは原則として毎回出席とし、議論への積極的な参加を期待する。
- (3) 単位取得要件・成績評価基準：出席と発表によるゼミへの参画度によって評価する。
- (4) テキスト：主な参考書として以下の文献をあげる。その他、適宜紹介する。

速水佑次郎（2000）『開発経済学：諸国民の貧困と富』，創文社現代経済学選書。

Cammet, M., I. Diwan, A. Richards and J. Waterbury (2015), *A Political Economy of the Middle East*, fourth edition, Westview Press.

Wilson, R. (2013), *Economic Development in the Middle East*, Second edition, Routledge.

Todaro, M.P. and S. Smith (2011), *Economic Development*, Eleventh edition, Addison Wesley.
- (5) 連絡先：kashiwagi.kenichi.fn@u.tsukuba.ac.jp 内線：3982, 7424
- (6) 関連 URL：<http://www.trios.tsukuba.ac.jp/researcher/0000000278>
<http://arenatsukuba.wordpress.com/>

黒川義教ゼミ（国際経済学・経済理論）

筑波大学人文社会系准教授 黒川 義教

1. ゼミナールの概要

私の主な研究分野は国際貿易論、産業組織論、マクロ経済学である。最近は特に、（１）競争政策と賃金格差、（２）参入緩和と所得分布、（３）為替レート体制・国際貿易・賃金、（４）ジョブローテーション、（５）要素集約度逆転に関する理論的・定量的分析に焦点を当てている。当ゼミでは、国際貿易論を中心に、ミクロ経済学、マクロ経済学、国際金融論なども学ぶことができる。

① 本ゼミ（木曜の昼休みと3時限）

<形式>

私の指導の下、レポーター形式の輪読・討論

<内容>

国際経済学の基礎理論やその応用に関するテキスト・文献を輪読し討論を行う。

<テキスト（2017年度）>

Feenstra, Robert C. and Alan M. Taylor. 2017. *International Economics (Fourth Edition)*. Worth Publishers.

② サブゼミ

<形式>

学生だけで集まり、レポーター形式の輪読・討論

<内容>

ミクロ経済学・マクロ経済学の基礎理論を学ぶ。ゼミ指定講義も履修してもらう。

<テキスト（2017年度）>

奥野正寛、『ミクロ経済学』、東京大学出版会、2008年

吉川洋、『マクロ経済学（第3版）』、岩波書店、2009年

③ インゼミ論文・独立論文

統一テーマの下、国別・地域別・時代別等で分担して、インゼミ論文・独立論文を書いてもらう。夏合宿や他大学とのインゼミ等で報告してもらう。

④ 合宿

夏休みに本ゼミ合宿が行われる。

2. 入ゼミ試験

- ★ 出願資格 「国際経済論」、「初級ミクロ経済学」、「マクロ経済学概論」を履修済みまたは履修中の者
- ★ 筆記試験（範囲は上記3科目で、英語で出題・解答）と面接（日本語）を2017年1月16日（月）に行う。
- ★ 出願締め切りは2016年12月24日（土）とする。出願希望者は大学の公式メールで私にコンタクトすること。折り返し出願票を送ります。

3. 2016年度ゼミ HP

<https://sites.google.com/site/kurokawaseminar16/>

Globalization and Development Seminar

Jeet Sapkota, Assistant Professor, Faculty of Humanities and Social Sciences

1. Introduction

This seminar explores globalization and development issues aiming to enhance students' research skills that are pertinent to academic writing such as a research article, graduation thesis and the like. Within the broad theme of globalization and development, you will explore your research interest and develop a research title/topic. Taking this seminar, you will acquire all the necessary research skills; such as reviewing relevant literature, applying appropriate research method, analyzing data and presenting results. After completing the course, you will be able to develop a research proposal, make an oral presentation of your research idea and output, and ultimately write research article and thesis.

Conditions for earning credit and grading: Third-year students are required to write a short research proposal in the spring semester and a short research paper in the fall semester on your research topic to earn the credit. Fourth-year students will dedicate the both semester to write a graduation thesis. Grading will be based on the attendance, class participation, individual presentations and the research output.

Textbooks and reference materials:

There is no textbook for this course. Reference materials will be assigned according to students' research interests.

2. Semester, period and venue

This seminar will be conducted in both semesters on Thursdays, 12:15-15:00, at room 8A103. The class room 8A103 is located in the first floor of Master's building 8A.

3. Prerequisites, how to apply and selection schedule

Prerequisites: There are no prerequisites to join this seminar; however, prior knowledge of basic statistics and international development is an advantage. Please also note that the entire activities of the seminar will be conducted in English.

How to apply: Please, apply directly to the instructor via email (*see below*) explaining your interest in detail. The explanation should include your major field of education/study, skills and experience/s (if any) and your research interest.

Selection schedule:

- *Oct. 15-Dec. 15:* Contact the instructor explaining your interest (please send an email in advance).
- *Dec. 15:* Deadline for application.
- *January:* Selection period by the instructor.
- *By January 29:* Notification of selection.

4. Additional information

Please feel free to contact the instructor via email.

E-Mail: sapkota.jeet.gb@u.tsukuba.ac.jp

Phone: 029-853-6842

田中洋子ゼミ（グローバル経済研究）

筑波大学人文社会系教授 田中 洋子

1. ゼミナールの概要

田中ゼミは、グローバル経済の進展によって社会や世界がどのように変容してきたかという問題を、歴史的・国際的な視点から学ぶゼミです。工業化や経済発展に伴って生じる社会経済システムの構造転換、生活や価値観の変化に関わるテーマを毎年定め、一年かけて掘り下げて学んでいきます。

2017 年度のゼミでは、機械化・自動化・デジタル化・ロボット化と雇用をテーマとしてとりあげます。工業化やインターネット・IT 革命の中で、私たちの生活はどんどん便利になってきています。つらい肉体労働は減少し、豊富な商品が安く出回るようになりました。しかしその一方で、経済に必要な労働は機械やコンピューターに代替されるようになってきています。車も自動運転され、オンライン・ショッピングが実際の店に取って代わり、事務仕事もソフトウェアがやってくれます。これからみなさんが就く仕事はどんなものになるのでしょうか。ここでは歴史的変化のありようを学ぶとともに、これからの職の姿を考えます。

例年、文献講読に加え、机上の理論と現場の経験の融合を目指して、様々な現場調査にゼミで出かけ、成果を学園祭で発表し、講演会やシンポジウムを企画・開催しています。また、ゼミ生一人一人の問題意識に合わせて、大学生活の総括となる論文作成を支援します。

田中ゼミは、様々な視点を持つ学生が少人数で議論し、今後の社会のあり方や自分の生き方について考える場でもあります。ゼミ合宿や OB 会をはじめ、ゼミ後に持ち寄り夕食会を行うなど、時間と経験、情報と議論の共有を通して、何でも話し合える関係の形成を目指しています。

2. 開講曜時限

春 AB 水 5・6 + α 、秋 AB 水 5・6 + α 、秋 C 集中

3. 履修要件・入ゼミの方法

- ・ゼミの内容を理解した上で、ゼミ活動全体に積極的・主体的に取り組みたい人を歓迎します。（すでに田中の授業をとっている人が望ましいです）
- ・入ゼミ希望者は、田中にメールで連絡をとった上で 11 月 20 日までにレポートを提出してください。その後適宜面接をへて、12 月半ばまでに結果を通知します。

4. その他

- ・連絡先 [tanaka.yoko.ft\[at\]u.tsukuba.ac.jp](mailto:tanaka.yoko.ft[at]u.tsukuba.ac.jp)
- ・ゼミのホームページ <http://soziale.mond.jp/tanakasemi/>
- ・ゼミの facebook <https://www.facebook.com/pages/筑波大学-田中洋子ゼミ/>

内藤ゼミ（公共経済学）

筑波大学人文社会系准教授 内藤久裕

1. ゼミナールの概要

このゼミの目標は、マクロ経済学、ミクロ経済学、計量分析を総合的に学び、経済をバランスの取れた目で見える力を養うこと、ゼミでの学生間でのコミュニケーションを通して、対象に対する理解を深める術を学ぶことです。私は、現在、マクロ・ミクロ・計量分析の手法を使って、途上国の人的資本蓄積、乳幼児死亡率の決定要因、HIVの人的資本への影響、医療、先進国での貯蓄、労働市場、教育、企業投資などを分析することに関心があります。ゼミでこのようなトピックを学習し、これらのトピックに関して卒論・独論を書きたい人にこのゼミは向いているでしょう。

私のゼミの特徴は、学生間の学びを非常に重視していることです。ゼミでは、サブゼミ、メインゼミを通して、ゼミの同級生と統計学、計量経済学、応用経済学を深く学びあえるような環境を作っていきます。3人よれば文殊の知恵と言いますが、最初は分からなくても、学生間で話し合っているうちに理解が深まることが多くあります。皆が分からないときにどのように進めるか、そのようなスキルは社会に出てからも非常に重要と考えています。

ゼミでは、2年生の12月から統計学・計量経済学のサブゼミを行います。サブゼミでは学生を中心に月曜日2時間目に集まって勉強してもらいます。ときどき私も参加したり、宿題を出したりします。

本ゼミは、3年の4月から、水曜日のお昼3時間目・4時間目を用いて行います。初めはマクロの経済成長の本を輪読し、経済発展のメカニズムを理解したあと、応用経済学の面白い論文を読んでゆきます。（途上国の教育の経済発展への因果関係の分析、先進国における国際貿易が賃金格差にあたえる影響の分析、食糧援助が紛争にあたえる影響の分析、人口増加と経済成長の関係の分析など）これらの論文は、非常に論争を呼んだ論文です。また、それ以外にも労働市場、人的資本蓄積のメカニズムを分析した個別の論文を輪読してゆきます。この間も、月曜2時間目の計量経済学のサブゼミは、夏休みまで続けます。

サブゼミは必修なので、12月から月曜2時間目にサブゼミに出席できない人は応募しないでください。

2. 開講曜時限

本ゼミ：水曜昼休みと3時間目（週によっては、3時間目と4時間目）

サブゼミ：月曜2時間目（統計学・計量経済学の学習をおこないます。）

3. 履修要件・入ゼミの方法・選抜スケジュール

マクロ経済学を履修していることが非常に望ましいです。

ゼミの学生の多様性を確保するために成績だけでは選抜しません。

明るさ、やる気を重視します。詳しい応募要項はゼミのホームページを参照してください。

12月5日応募書類提出締め切り

12月6日面接

4. その他（例：連絡先、個人HP・ゼミHPのリンク等）

応募に当たっては、以下のHPを見て、志望書を作成すること

http://www.dpipe.tsukuba.ac.jp/~naito/teaching_web/seminar/seminar_announcement2016.htm

中野優子ゼミ（開発経済学）

担当教員：中野優子 人文社会系助教

金曜 4-5 限

私は、途上国の人たちがどうすれば貧困から脱け出せるかを考える開発経済学という分野を専門にしています。主にサブサハラ・アフリカの農業を対象としたミクロ実証分析が専門です。（詳細は下記学類 HP の教員紹介記事を参照。）ゼミでは、サブサハラ・アフリカに限らず、途上国の開発問題を経済学に基づいて分析します。

http://www.kokusai.tsukuba.ac.jp/kyouin/01_04.html

活動内容

1) 開発経済学（または計量経済学）のテキストのレポーター形式の輪読および討論
ゼミ生の興味、基礎学力の状況に応じて、開発経済学のテキスト、もしくはそれに引用されている論文を輪読し討論を行う。

例: Hayami, Y. and Y. Godo. 2005. *Development Economics: From the Poverty to the Wealth of Nations*. Oxford University Press.

Benerjee, A.V. and Esther Duflo. 2011. *Poor Economics*. Public Affairs.

2) 独立論文および卒業論文の報告と指導

3) ゼミ合宿（ただしゼミ生の希望と教員のスケジュールによる）

入ゼミ条件

- 「開発途上国における諸問題」を履修済み、あるいは入ゼミ後に必ず履修すること。
- ゼミ見学は毎週受け入れています。今年度のゼミは金曜 5 限に 3K227 で行っています。
- 主ゼミ生としての受け入れは 5 名程度の予定です。希望者多数の場合は、成績、面接、および担当教員の専門分野との適合性に基づいて選考を行います。
- サブゼミ生としての受け入れも行います。サブゼミ生はゼミに参加し、論文についてもゼミ発表での口頭での指導は行いますが、論文執筆の指導は行いません。
- ゼミには毎週参加することと、入ゼミ前後に「開発途上国における諸問題」、「計量経済学」およびその他の関連授業を積極的に履修し、経済学的な考え方を身に着けることを入ゼミの条件とします。途上国の開発問題に興味のある、意欲ある学生の参加を歓迎します。
- ゼミ生が管理運営しているゼミサイトは <http://nakanoyuko.com/> です。
- 入ゼミを希望する可能性がある人は、必ず 2016 年 10 月 23 日までに中野 nakano.yuko.fn at (at を@に置き換え) u.tsukuba.ac.jp にメールで連絡し、10 月末日までに直接面会をするようにして下さい。

POHL Martin Seminar (The Work of Peter Drucker)

筑波大学 Associate Professor of Management - Martin POHL

1. ゼミナールの概要

The seminar is conducted throughout the year (Spring ABC and Fall ABC). The seminar focuses mainly on three topics: (i) To give an overview of management with special focus on Japan. (ii) To provide a thorough understanding of major business function. (iii) Students are encouraged to raise awareness about the impacts of globalization, sustainable growth, as well as ethical and socially responsible business practices. Students are expected to have an interest in management and may consider to enter in this field as future professional environment. Management is a universal science in a global world, so the seminar is structured on an equal welcoming of female and male, Japanese and foreign students.

2. 開講曜時限

The seminar is conducted on a weekly basis. It is held in the 7th period on Wednesdays from 18.15h - 20.00h.

3. 履修要件・入ゼミの方法・選抜スケジュール

(i) Seminar language is English, which includes the readings and discussions. English means having a level of expression using this language as tool – almost nobody in the seminar including the instructor is native speaker. This reflects the real global business world. The main reading text of the seminar written by Peter Drucker has been translated into many languages including Japanese, Chinese and Korean – these translations may be used for individual preparation.

(ii) Every student has to conduct one presentation each semester in English. After the presentation there will be a discussion among students.

(iii) Every student may come to the seminar to experience it first-hand any time, but kindly write me before by mail: pohl.martin.gf@u.tsukuba.ac.jp Please consider the registration deadline of the college (Feb 28) – so contact me well enough before.

4. その他 (例: 連絡先、個人 HP・ゼミ HP のリンク等)

Topics of previous graduation thesis (some examples):

- Issues and its Prospect of Japanese Entrepreneurship -
- Harmonizing Social Business with the Economic Reality - Balancing Profitability and Sociability
- Business Challenges of the Japanese Cosmetics Industry in China
- The Challenges of Marketing-Mix by Mitsubishi-Fuso in Turkey, Morocco and Pakistan
- G30 Students Using YouTube for Academic Purposes - A Case Study
- Election Campaigns with Social Network Services (SNS) - Social Election in Korea
- The Lesson Learned From 3.11 - Consideration of “Just In Case” Supply Chain
- Retail Business’ Contribution to Regional Agriculture by CSR-Strategy in Japan

Please visit my web site: www.japan-germany.org.

MOGES Seminar in Development Economics & Policies

Abu Girma MOGES

Course Description: This seminar explores the issues of economic growth, income distribution, economic policy, income inequality, poverty, social wellbeing and vulnerability from an interrelated perspective. Emphasis will be made on specific topics on the basis of research topics of students. The process and challenges of economic development are discussed with historical and contemporary contexts. Students will have opportunities to examine the different and competing theories of economic development and their economic policy recommendations to address pressing economic, social and political problems in developing countries.

Objective: The main objective of the seminar is to equip students with the analytical skill and research methods in development economics and policy issues. The seminar discusses theories, policies, and country experiences to understand major issues in development economics and policy.

Approach: This seminar emphasizes on participatory approach of students in which selected economic development issue in developing countries are discussed. The seminar involves extensive reading and discussion so as to expose students to diverse ideas and methodologies. It also helps students prepare themselves to conduct research on issues of their choice.

Contact Information and Seminar Room: Please contact the teacher by e-mail to express interest to join the seminar. Screening, interview and decision follow afterwards.

E-mail: agmoges@gmail.com

Venue: Seminar D Room at Central Library

Time: Tuesdays 18:30 ~ 20:00pm

Outline of Topics and Issues for Discussion and Research:

- I. Conceptual Issues of Economic Growth and Development
- II. Measuring Economic Welfare
- III. The distribution of Income and Inequality
- IV. Poverty
- V. Economic Policies and Institutions for Development

Main References:

Timothy Besley and Torsten Persson. 2011. *Pillars of Prosperity: The Political Economics of Development Clusters*, Princeton: Princeton University Press.

Debraj Ray (1998). *Development Economics*, NJ: Princeton University Press.

Kaushik Basu. 2003. *Analytical Development Economics- The Less Developed Economy Revisited*, the MIT Press, Cambridge, Massachusetts.

More contemporary issues and reading materials will be assigned and used as the need arises.

Recent Topics of Research by Seminar Participants:

- The Economic Impact of Terrorism in Pakistan;
- Economic Analysis of Energy Crisis in Pakistan;
- The Development and Impact of China (Shanghai) Pilot Free Trade Zone;
- Analysis of Poverty among the Elderly in South Korea;
- Uzbekistan: Challenges and Prospects of Transition to Market Economic System
- The Roles of English Language Education in Human Capital Formation in Japan

Seminar Recruitment for 2016-17:

If you are interested to join the seminar, please contact me by e-mail at agmoges@gmail.com. The deadline for expression of interest is December 16, 2016. Decision for acceptance will be announced by early February, 2017.

Zhengfei Yu Seminar (Selected Topics in Program Evaluation)

Zhengfei Yu, Assistant Professor, Faculty of Humanities and Social Sciences

1. Introduction

Program evaluation is about discovering and measuring the causal effects of programs or policy interventions. This course is intended to equip 3rd-year students with popular strategies and approaches in empirical researches using cross sectional or panel data. Main topics include: elements in causal inference, randomized controlled trials (RTC), propensity scores, the sample selection model, differences-in-differences (DID), instrumental variables (IV, revisited from a perspective deeper than that in BC12061), regression discontinuity (RD) designs and distributional/quantile treatment effects.

A reading list will be provided by the instructor at the beginning of the course. There is no required textbook, but the following book is a good reference:

Angrist, J and J. Pischke 2009, *Mostly Harmless Econometrics: An Empiricist's Companion*. Princeton University Press.

Participating students are expected to present the papers from the reading list, and to replicate main results of important papers as exercises. The instructor will also give short lectures when necessary.

2. Semester, period and venue

Semester: Spring and Fall

Time: Thursday, period 5

Venue: TBA

3. Prerequisites, how to apply and selection schedule

Prerequisites:

Statistics (BC12031 or equivalence) and Econometrics (BC12061 or equivalence)

Selection schedule:

Oct. 14 -- Nov. 30 Contact the instructor by email and arrange an appointment.

Dec.15 -- Deadline for applications by e-mail.

Dec.16 -- Feb. 1 Selection period by the instructor.

Feb. 2 Notification of selection results

4. Additional information

E-mail: yu.zhengfei.gn@u.tsukuba.ac.jp

文化・社会開発分野

ことばと文化ゼミ（井出里咲子）

筑波大学人文社会系准教授 井出 里咲子

1. ゼミナールの概要

ことばと文化ゼミでは、学問としての言語人類学・社会言語学の理論と方法論を学びながら、ことばやコミュニケーションを切り口として現代社会や異文化を読み解く手法を学びます。研究テーマは日常会話やメールのやり取りにみる人間関係の構築方法、言語教育、メディアの言説に反映される見えない偏見など、私たちがことばを介して実践しているもの全てが対象となり得ます。ことばが面白くて常に興味を持っている、スペイン語が好きで堪能、といった動機でも構いませんが、同時に本学類ではカリキュラムとしての積み重ねがないので、言語人類学や社会言語学等の研究方法を独学で学ぶ「覚悟」も求められます。

ゼミでは春・秋学期を通して、各自の論文のテーマの選定、フィールド調査やデータ分析の実施、論文の執筆を行います。特に春学期には専門知識を学ぶための文献購読とディスカッションを行います。学期中は個人面談の時間も設けて、論文執筆に向けての助言をします。また不定期ながらゼミプロジェクトも実施します。過去には「ギャル系雑誌のテキスト分析」、「出会いの挨拶のフィールドワーク」、「震災体験の語りの収集」、「つくば市 HP の＜やさしい日本語化＞への提言作成」を行いました。過去のゼミ生の卒論テーマには「日本社会におけるカタカナ語の意味機能」、「現代中国における普通話制定の過程」、「新聞報道が語る福島原発事故」、「タイ社会の名付けとあだ名」などです。

ゼミ生は毎年 5 名ほどを受け入れます。入ゼミの規準は、具体的な研究テーマが当ゼミと合致しているかを重視します。尚、「言語人類学」（井出）及び人文学類の「応用言語学演習」（高木智世先生）を必ず履修してください。その他、日日学類の社会言語学系科目の履修を推奨します。

2. 開講曜時限

- (1) 「春 AB」＋集中（9 月下旬）「秋 AB」＋集中（12 月中と 1 月末＊）
（1 月末の集中は、「ことばと文化ゼミ独論卒論公开发表会」）
- (2) 「春 AB」「秋 AB」は、火曜 3・4 時限に、中央図書館のセミナー室で開催。

3. 履修要件・入ゼミの方法

- (1) 今年度は井出がサバティカル期間中のため、ゼミは実施しておらずゼミ訪問はできません。
- (2) 12 月 25 日までに：希望者は、①自己紹介と参加動機、②二年間をかけて取り組みたい研究テーマとを、それぞれ A4 二枚以内に記したレポートをメールで井出宛て送ってください。質問などはメールで受け付けます。また必要に応じてスカイプ面談も受け付けます。
宛先：ide.risako.gm<a>u.tsukuba.ac.jp （<a>は、@にしてください）
- (3) 1 月初め：ゼミ生決定を通知します。

柴田政子ゼミ（比較国際教育）

筑波大学人文社会系准教授 柴田 政子

1. ゼミナールの概要

教育の諸問題について、国際的比較の視点をもとに学際的に考察する。

従って、テーマは学校教育・公教育に限らず、教育を広義に解釈し、人の育成や学びに関する社会の諸側面を視野に入れる。

ゼミは、論文進捗状況など各構成員の研究発表をもとにディスカッション形式で行う。

2. 開講曜時限

木曜日 3 時限

「春 AB」＋「春 C」集中＋「秋 AB」＋「秋 C」集中

3. 履修要件・入ゼミの方法・選抜スケジュール

上記の通り、ディスカッションが主な活動であるので、相互に議論を深めあえるよう積極的な参加を重視する。

履修しておくべき科目等の要件はないが、少なくとも 1 回は体験ゼミが必要。

体験ゼミが可能な期間は、ゼミ説明会終了～翌年 1 月末。

希望者は、A4 紙 1 枚に、

(ア)氏名、学生番号

(イ)体験希望日

(ウ)入ゼミ後の研究予定テーマ（仮題）

(エ)研究予定内容の概要（300 字程度）

をまとめ、下記メールに添付して送り、事前に連絡を取る。

4. その他（例：連絡先、個人 HP・ゼミ HP のリンク等）

shibata.masako.ga@u.tsukuba.ac.jp

日米比較文化 (Comparative Culture: US & Japan)

筑波大学人文社会系准教授シャルボワ・ジャスティン (Charlebois, Justin)

1. Introduction

This seminar is intended for students who want to conduct research on some aspect of U.S. culture or comparative culture. “Culture” is a broad term that encompasses elements such as customs, family, language, politics, religion, and so on. In this seminar, we will use the insights provided by sociolinguistics, intercultural communication and other social scientific research as well as foundational primary source documents such as the U.S. Constitution to investigate the cultural norms and practices that underpin U.S. and Japanese cultures. Since the seminar will delve beyond stereotypes, we will critically examine aspects of Japanese and U.S. American cultures such as individualism/collectivism, independence/interdependence, modesty/self-confidence, communication styles, and social structure.

The instructor will provide supervision of graduation theses related to any aspect of U.S., Japanese, or comparative culture (U.S. and Japan).

2. Semester, period and venue

To be determined.

3. Prerequisites, how to apply and selection schedule

There are no formal prerequisites for the seminar, but I strongly encourage interested students to take my “Global Communication” course.

Students who are interested in potentially registering for the seminar should contact the instructor.

justinmcharlebois@gmail.com

Seminar in Business Anthropology

Yi Zhu (朱藝), Assistant Professor, Faculty of Human and Social Sciences

Contact information:

E-mail: zoezhuyizoe@gmail.com

Office: Room 314, 3K (by appointment)

1. Introduction

This seminar welcomes students who are interested in both business and anthropological study. It will use an interdisciplinary approach to study management, globalization and anthropology. Students will have opportunity to read English materials and discuss the issues such as human resource management, global culture, cross-cultural management and organizational culture.

2. Semester, period and venue

Spring ABC & Fall ABC

Thursday 1st & 2nd period @ 3B209 (subject to change)

3. Prerequisites, how to apply and selection schedule

▣ Prerequisites

- Students are encouraged to attend at least one of the seminars before December 15. Contact the instructor before the participation.

Date: October (6, 13, 27), November (10, 17, 24), December (1, 8, 15)

Time: 1st and 2nd period

Venue: 3B209

- Students are encouraged to attend my class in Autumn AB “Social Development” to get the general understanding of the framework for the seminar.

▣ Selection Schedule

1. Set up a face-to-face interview with the instructor by December 15

Contact the instructor at zoezhuyizoe@gmail.com to make an appointment to discuss your research interests and plans.

2. Announcement of results by January 31

The instructor will send the selection results to all applicants by January 31. Contact the instructor if you have not received e-mail by then.

4. Additional information

- ▣ Instructor's website: <http://zoezhuyi.net/>
- ▣ Introduction to the instructor's research:
http://www.kokusai.tsukuba.ac.jp/kyouin/01_07.html

文化人類学／「開発と文化」論ゼミ（関根ゼミ）

筑波大学人文社会系教授 関根 久雄

1. ゼミナールの概要

文化人類学／「開発と文化」論ゼミ（関根ゼミ）は次の2つのテーマのいずれかに関心をもつ学生を募集します。

- ① いわゆる「途上国」と呼ばれる国々で展開される（されようとしている）社会開発や開発援助の分野に人類学的視点からアプローチし、開発の意味やより「効果的な」開発とは何かなど、「文化」の視点を加味した開発、援助のあるべき方向性について。
- ② 広く現代世界（日本を含む）で生起されるさまざまな社会現象（①以外の現象）に対し、文化人類学的視点からアプローチする。

2. 開講曜時限

- (1)春 AB+秋 AB：火曜 6 限～19:30 頃まで（終了時間は決まっています）
(2)春 C 集中（7 月前半）+秋 C 集中（12 月後半）

3. 履修要件・入ゼミの方法・選抜スケジュール

2017 年 1 月 16 日（月）に参加申し込みの受け付けをおこないます。A 4 紙 1～2 枚程度に次の(1)～(3)の内容を書き、関根宛に送信して下さい。アドレスは、**sekine.enikes[at]gmail.com** です（[at]を@マークに変えてください）。受付は当日のみです。

- (1) 研究テーマとその概要（しっかりと内容を吟味すること）
- (2) 3 年次に長期の休学・留学を予定しているか否かの別
- (3) 2 年次までに履修した人類学系、社会開発系の科目名

スケジュール

- ・ゼミ見学可能日（すべて火曜日 6 限～19:30 頃まで）※事前にゼミ教員宛に要メール連絡。

10/18

11/1・8・15・22

12/6・13・20

- ・ゼミ申し込み日：1/16（月）→担当教員による選考：1/16→入ゼミ可否の結果通知：1/17

なお、1/17（火）に担当教員から出される「参加許可」のメールを受信し、期日までにそれに反応しない場合は、キャンセル扱いとします。

2017 年 4 月時点で国際総合学類の 3 年生であれば誰でも応募できますが、研究テーマや募集人数の関係で受け入れを断る場合もあります。また、男女比を考慮する場合もあります。現在のゼミ生数の関係で、新 4 年生の新規受け入れは行いません。

4. その他（例：連絡先、個人 HP・ゼミ HP のリンク等）

問い合わせ：関根久雄（sekine.hisao.gm@u.tsukuba.ac.jp）、あるいは現役ゼミ生（3・4 年生）

関根ゼミウェブページ：<http://www.u.tsukuba.ac.jp/~sekine.hisao.gm/jugyo/zemi.htm>

関根久雄ウェブページ：<http://www.u.tsukuba.ac.jp/~sekine.hisao.gm/>

前川ゼミ（文化・開発論ゼミ）

筑波大学人文社会系教授 前川 啓治

1. ゼミナールの概要

・ゼミの紹介

ゼミ生の自主的な意欲を尊重し、前提とする健全なゼミです。

ゼミ生はとても仲が良く、基本的に向上心のある人が多いところです。

・扱うトピック

- ①人類学のテーマ全般、②文化のグローバリゼーション、③地域づくり、
④狭義の人類学に該当しなくともフィールドワークに基づき、卒論を書く場合

・学習目標

独論は必須で、また自ら卒論のテーマと題材を見つけ出し、評価A以上の論文を書く。

・修得できるスキル等

フィールドワークの手法、幅広くものを見る目。

・使用するテキスト 適宜指示

参考文献 Development Sociology: Actor Perspectives: Norman Long

・単位取得条件や成績評価基準

出席と発表

2. 開講曜時限

水曜日 5 時限(第 3 週を除く)，教室：3K325

3，4 年生合同で行う。6 時限も継続して行うときもある。

3. 履修要件・入ゼミの方法

自由科目「筑波山から学ぶ」および／ないし「野外調査法」を履修のこと。

未履修のゼミ生は、3 年次以降に履修のこと。

A4 1 枚の半分以上に、現在興味を持っている学問的トピックをまとめて提出する。

・学生がコンタクトする方法

メールで連絡

・選抜スケジュール

11 月以降： 教員へのメール問い合わせ

11 月中旬以降： オープンゼミ(前もってメールで問い合わせ)

2 月上旬： 教員へのゼミ参加希望表明締切日

2 月中旬： 教員による通知

山田ゼミ（翻訳の人類学）／Anthropology of Translation

筑波大学人文社会系助教 山田 亨／Toru Yamada

1. ゼミナールの概要

「翻訳の人類学」（山田ゼミ）では、記号（symbol）と指標（index）、そして、言説（discourse）を焦点に、人類学的な視点から地域社会や国際社会の諸事象を分析する。

In the Anthropology of Translation Seminar, we will examine the pragmatic use of symbol, index, and discourse both at international and community level from an anthropological perspective.

2. 開講曜時限

(1)春 AB＋秋 AB：火曜 6 限／ Spring AB and Fall AB: Tuesdays 6th period

(2)春 C 集中（7 月前半）＋秋 C 集中（12 月後半）／Spring C and Fall C: TBA

3. 履修要件・入ゼミの方法

（１）「Contemporary Society」や「Social Anthropology」をはじめ人類学系の科目を履修していること。／Prerequisites: Anthropology courses such as “Contemporary Society” and “Social Anthropology.”

（２-JP）参加要件：2017 年 1 月 26 日（木）までに、①から③を含めて A4×2 枚にまとめて email で提出してください。アドレスは、yamada.toru.ga [at] u.tsukuba.ac.jp になります（[at]を@マークに変えてください）。

① 独論で取り組みたい研究の問題設定とその概要

② ３年次に長期の休学・留学を予定しているか否かの別

③ ２年次までに履修した人類学系、社会開発系、国際関係系の科目名

（２-EN）Submit the followings via email by January 26, 2017 (Thursday), within 2 pages (single-spaced, A4 or Letter size paper) to yamada.toru.ga [at] u.tsukuba.ac.jp

① Your research interest (dokuritu ronbun)

② Your study-abroad, research-abroad, or leave-of-absence plan (if applicable)

③ A list of the courses which you have taken so far in anthropology, development, or international relations

4. その他（例：連絡先、個人 HP・ゼミ HP のリンク等）

連絡先／contact information：

電話／Tel: (029) 853-2771

E-mail: yamada.toru.ga [at] u.tsukuba.ac.jp

ホームページ：http://www.u.tsukuba.ac.jp/~yamada.toru.ga/

情報・環境分野

奥島ゼミ（環境経済学、環境政策）

筑波大学システム情報系社会工学域 准教授 奥島 真一郎 (okushima@sk.tsukuba.ac.jp)

1. ゼミナールの概要

本ゼミは、経済、環境、エネルギー、政策分析に関わるテーマを主題とします。担当教員は環境経済学が専門ですが、開発経済学や公共経済学など経済学の他分野、環境社会学や環境倫理学など環境と経済に関する他ディシプリンの研究、経済思想や日本経済論などのテーマでもOKです。

ゼミでは、「教養」と「専門性」双方の涵養を目指します。前者については、①新聞を用いた時事問題に関するディスカッション、②社会科学の古典の講義・輪読、また後者については、③環境問題に関連する書籍・論文を用いたディスカッション、④プロジェクト研究、などを予定しています。本ゼミにおいては、なるべく早い時期から、自ら関心があるテーマを決定し、具体的な調査・研究を進めていくことを目標とします。現代社会において必須である、プレゼンテーション技術（説得技術）の育成も重視します。

大学生活は1分1秒が貴重であり、人生の中で文字通り“invaluable”な時期だと考えますが、大学時代にゼミ等で「自ら学ぶ習慣」、「自ら考える習慣」を身につけることは、今後の長い人生において極めて重要であると考えます。このような問題意識から、本ゼミでは、教養と専門性を兼備した、真に主体性のある人間を目標に、共に切磋琢磨したいと考えています。そのため、自ら問題意識をもった、受身でない、意欲的な人材を歓迎します。

2. 開講曜時限

春 AB+秋 AB+集中

火曜日または木曜日の5時限、6時限、時間外（その年のゼミ生の都合により調整可）

3. 履修要件・入ゼミの方法・選抜スケジュール

ゼミ参加者に期待する要件としては、上述の観点から、第一に①主体性、意欲、そして②関連分野の基礎知識があげられます。さらに、思想的なことに関心があること、物事を多面的に考えることができる人を一層歓迎します。もちろん、担当教員の授業をすでに受けていることが望ましいのはいうまでもありません。それは授業が、担当教員の学問的関心や雰囲気を知るための最も良い機会だからです。

人数は、各学年3名程度を予定しています。理由は、ゼミにおける学生の主体性を保証するためにはこのぐらいの人数が限界だと考えるからです。

選抜方法は、原則として、ゼミ見学、面談の上、課題レポート等による選抜、とします。具体的な手順としては、2年次10月のゼミ説明会の後、①e-mail等によるゼミ見学会参加・担当教員との面談の予約（11月中旬まで）、②ゼミ見学会参加（11月中旬）後、課題提出（12月初旬）、担当教員・ゼミ生との最終面談（12月中旬）、③選抜の結果OK、④正式な参加申請（12月末まで）、⑤担当教員による内定（12月末）、となります。詳しくは、2年次10月の国際総合学類ゼミ説明会で説明しますので、本ゼミ希望者は必ず参加してください。

4. ゼミOBOGからの声

本ゼミで過ごした数年間は、卒業後に進学した University of California, Davis 大学院や現在の職場であるタタ財団（Tata Trusts）で活躍するための土台を築いてくれました。時事問題についてのディスカッションと古典の輪読を通じて幅広い教養が身につくとともに、長期的な視点から現代の環境問題、社会問題を分析し、議論する力や論文にまとめる力を磨くことができました。多種多様なバックグラウンド、興味関心をもつゼミ生との日々の活動は、包括的な視点から研究テーマを掘り下げ、将来の進路についても考える機会を与えてくれました。主体性が重んじられる奥島ゼミでは、ディスカッションの準備や合宿の計画、独立・卒業論文の執筆まで、学生が自ら率先して取り組んでいくことになります。ここでの経験は、高い自己管理能力が求められるアメリカの大学院や職場で生き残る上で、大きな支えになりました。そして、何事にも妥協を許さないゼミ仲間、在学中のみならず、今でも互いに切磋琢磨できる大きな財産です（ゼミOB、26期）。

亀山ゼミ（適応情報処理研究室）

システム情報系 教授 亀山啓輔

1. ゼミナールの概要

当研究室では環境や状況に適応してアルゴリズムやモデルを変更していく情報処理様式について研究を行っています。人間をはじめとする生物には、限られた情報処理資源を利用して、試行と失敗を繰り返し、時には世代を超えて問題を解決していく能力があります。このようなプロセスを「適応情報処理」様式にとらえ、基盤となる学習、最適化、信号処理の理論をふまえて、適応的なパターン認識、信号・画像処理、検索アルゴリズムを提案、実世界の問題を解決していくための研究を行っています。

当研究室では、鈴木大三先生と共同で(a) パターン認識に関連する英文論文購読と研究進捗報告を基本とする「研究ゼミ」、(b) パターン認識、機械学習に関連する基礎知識の獲得やプログラミングスキル養成のための「基礎ゼミ」、および (c) 一人一人異なる研究テーマに関する教員との個別ディスカッション(隔週通年)の3つを中心に研究を進めます。

2. 開講曜時限

- | | |
|----------------|----------------------------|
| (a) 研究ゼミ | 月曜日 18:15 – 20:00, @ 3F816 |
| (b) 基礎ゼミ | 火曜日 18:15 – 20:00, @ 3F816 |
| (c) 個別ディスカッション | 日時相談の上、隔週実施 @ 3F908 |

3. 履修要件・入ゼミの方法・選抜スケジュール

知的メディア処理、特に画像の認識や処理に興味があり、3年次進級時点で学類で開講している数理学I, II, 情報科学I, II, 統計科学, 情報メディア概論, データ解析を履修済みであること。CまたはJavaを用いたプログラミングスキルをもっていること。英語で書かれた情報分野の論文が読めること。定員：各学年2名

当ゼミでの専門ゼミナール履修を希望する人は、下記連絡先にメールで連絡をください。面談を行い希望する研究テーマについて聞き取りを行います。10月、11月の研究ゼミ、基礎ゼミにはゲスト参加を歓迎します。10月中に、国際総合学類生、情報科学類生向けの研究室説明会を実施します。

選抜スケジュール

- 10月-11月：ゼミ見学、研究ゼミ&基礎ゼミゲスト参加期間
(日時は研究室ウェブページ参照)
- 12月前半：教員による面談期間
- 12月末：次年度ゼミ生を決定

4. その他

Web : <http://adapt.cs.tsukuba.ac.jp>,

E-mail : kame@adapt.cs.tsukuba.ac.jp

Adaptive Information
Processing Group



白川ゼミ（水環境・河川）

筑波大学システム情報系准教授 白川 直樹

1. ゼミナールの概要

水環境や河川に関するさまざまな問題を扱います。ゼミ生は各自の興味関心に応じて研究テーマを設定し、似たテーマ群に取り組む学生をグループ化した班ごとに議論を重ねて知識を広げながら研究を深めます。また、いくつかあるプロジェクトのいずれかに所属してチーム作業を行い、現場との接点を持って総合的な視野と社会還元の意識を育みます。

研究テーマには、水環境の評価や比較、川の歴史や文化、管理制度やまちづくり、環境教育、防災システム、統計分析、経済評価、環境モデリングなどがあります。工学システム学類や大学院生を交えてゼミを行いますので、望めば数学や力学を用いた研究も可能です。もちろん数学が全くできなくても大丈夫です。

プロジェクトには、実際の川を題材にしたかわまちづくり計画の立案、川や水に関する子供向け環境教育プログラムづくり、地域住民の川や水に対する意識の調査分析、ふる里の水辺の生き物の保全策の検討、地域防災力の向上提案などがあります。いずれも現地で環境保全活動に取り組んでいる住民や管理者の方々と意見交換しつつ、場面に応じて必要となる学術的な基礎知識や手法を習得しながらチーム活動として進めていきます。

2. 開講曜時限

月曜3限（仮）に全体ゼミ、その他に班ゼミとプロジェクトゼミ（曜時限は相談して決定）

3. 履修要件・入ゼミの方法

担当教員と面談を行った後、参加希望の意思を伝えてください。履修要件はありません。原則として5名を上限とします。

11月30日まで：教員訪問（メールにて面談日時を決定すること）

12月12日まで：ゼミ参加希望表明（メール送付）

12月19日まで：ゼミ参加可否の通知

4. その他（例：連絡先、個人HP・ゼミHPのリンク等）

連絡先：naoki-s@kz.tsukuba.ac.jp

<http://surface.kz.tsukuba.ac.jp/~ns/>

鈴木大三ゼミ（メディア信号処理）

筑波大学システム情報系助教 鈴木 大三

1. ゼミナールの概要

マルチメディア機器の発展やブロードバンド網の普及によって、医療分野や芸術分野をはじめデジタルカメラやインターネット配信などのエンターテインメント分野に至るまで、様々な場面で多様な画像・映像データが使用されるようになった。しかし、新たな画像・映像データが増えるにしたがい、限られたストレージ容量や通信帯域が圧迫され続けている。その結果、データ使用制限や通信速度低下などが発生し、サービス提供者においてもユーザにおいても不便さを感じざるを得ない状況が多々あり、また今後もその問題は加速すると予想される。当ゼミでは、画像・映像データを多次元信号と捉え、信号処理の観点から主にそれらの問題を解決する手法について 研究する。

主な活動としては、英文論文購読と研究進捗報告を基本とする「研究ゼミ」、基礎知識の獲得やプログラミングスキル養成のための「基礎ゼミ」、個々人の研究テーマに関する教員との「個別ディスカッション」を行う。また、当ゼミは亀山啓輔先生と共同で研究を進める。

2. 開講曜時限

- ・研究ゼミ : 月曜日 18:15～20:00 @ 3F816
- ・基礎ゼミ : 火曜日 18:15～20:00 @ 3F816
- ・個別ディスカッション : 日時相談の上、適宜 @ SB1107

3. 履修要件・入ゼミの方法・選抜スケジュール

履修要件 : マルチメディア関連の信号処理（特に画像・映像処理関係）に興味がある方

必要知識 : 信号処理、線形代数、微積分、プログラミング（MATLAB や C 言語）等

入ゼミ方法 : 説明会→面談→決定

選抜スケジュール

- ・10月 - 11月 : ゼミ見学、研究ゼミ&基礎ゼミゲスト参加期間
(日時は研究室ウェブページ参照)
- ・12月前半 : 教員による面談期間
- ・12月末 : 次年度ゼミ生を決定

4. その他（例：連絡先、個人HP・ゼミHPのリンク等）

- ・Eメール : taizo@cs.tsukuba.ac.jp
- ・個人HP : <http://www.cs.tsukuba.ac.jp/~taizo/>
- ・研究室HP : <http://adapt.cs.tsukuba.ac.jp>

高橋ゼミ（ヒューマンコンピュータインタラクション）

筑波大学システム情報系准教授 高橋伸

1. ゼミナールの概要

本ゼミでは、今後さらに進化するコンピューティング環境に向けて、「日常、人とコンピュータ」という観点から、人とコンピュータの新しい関わり方について研究を行います。学生の興味に対応して本ゼミでは情報技術やコンピュータ関連の幅広い対象を扱います。

セミナーにおいては、ヒューマンコンピュータインタラクションやソーシャルコンピューティングに関わる基礎的文献調査、フィールドワーク、評価実験などを中心に研究を行います。まずは関連する文献や国際会議論文を多数読むところから始め、自分の興味のある対象を見つけてもらいます。ゼミは基本的に週2回で、曜日時間はメンバー決定後の要相談となります。現在は、情報系の学生と合同でゼミを行っています。春・夏合宿も行っていますので、参加して下さい。

2. 開講曜時限

春 ABC 秋 ABC の期間に週2回1～2コマ相当時間のゼミを行う。

開講曜時限は参加者のスケジュールを調整して決定する。

3. 履修要件・入ゼミの方法/選抜スケジュール

履修要件は特にないが、ゼミは毎回出席が義務であり、無断欠席が続く場合は単位取得を認めない。

ゼミ参加希望者には面接を行うので、メールで連絡すること。

選抜スケジュール：

10月～11月末：ゼミ見学・面談等受付

12月：ゼミ参加希望受付

12月末：選抜結果連絡

4. その他（例：連絡先、個人HP・ゼミHPのリンク等）

メール：shin@cs.tsukuba.ac.jp

HP：<http://www.iplab.cs.tsukuba.ac.jp/~shin>

Simona Vasilache Seminar: SNS & Software Engineering
Simona Vasilache, Assistant Professor, Grad. School of Systems and Inf. Engineering

1. Introduction

Everybody knows and uses SNS! What are they? What areas are they used in? What are their benefits/drawbacks? What are researchers saying about them? How can we use them, so they become (even more) useful? We can answer all these questions together!

What is software engineering?! Can I become an engineer if I study about it? Am I going to write software? Can I become a programmer?! Is there any difference between a computer scientist, a software engineer, and a programmer?

More questions, which can become really interesting if we work on them together!

(Definition of SE: engineering discipline concerned with all aspects through which software is developed)

We will read various articles & materials and we will discuss them together. Thus, the seminars will become a forum for exchanging ideas. Everybody can (and must) express what they think! We will hold round-table style discussions and, as discussions go, we may start with a certain topic and reach a very different one! We may discover things we didn't even know we knew and we can come up with really novel ideas!

We will try to understand the increasing role of SNS in the 21st century, mainly in the fields of science and education. Furthermore, we will find out what software engineers do, the challenges they face and how they differ from programmers. We will study interesting examples of success and failure stories, in both the social networking services and software engineering fields.

Moreover, we will all have the opportunity to gain experience in understanding and writing academic papers in English, as well as practice our presentation skills.

2. Semester, period and venue

To be decided every semester, based on the instructor's and the students' schedules
(Spring-fall 2016: Friday 3pm~)

3. Prerequisites, how to apply and selection schedule

#No particular prerequisites for this seminar

Contact the instructor by email (before Dec. 15) → Individual meeting with instructor (Dec., Jan.) →
Final notification of selection results (Feb. 1)

4. Additional information

E-mail contact: simona@cs.tsukuba.ac.jp

松原康介ゼミ（都市計画技術協力、都市史）

筑波大学システム情報系准教授 松原 康介

1. ゼミナールの概要

都市計画、とくに海外の都市計画や都市の歴史について、共同作業を通して学ぶゼミです。世界中に存在する歴史ある都市空間を、いかにして現代の生活の中で継承し、活かしていくことができるかについて考えます。

指導教員は中東・北アフリカ地域を専門とし、モロッコ、シリア、フランスに留学経験がありますが、地域的な関心は自由で、現在、多くの国に留学した、あるいは留学中のゼミ生がおり、それぞれの都市での生活体験に根差した研究を展開しています。教員やゼミ生が留学先を訪問し、現地ゼミを開くこともあるかもしれません。

毎年ゼミ合宿、秋には東大中島直人研究室との合同合宿を行います。また、3年生主体の「大学生観光まちづくりコンテスト」などへの参加（2015年はパフォーマンス賞を獲得！）を通じて、現地調査とチームワークの精神を学びます。

参考までに、2015年度の卒業生の研究テーマは、「アンコール・ワットの空間構成」「パリ郊外における移民住宅」「プラハの多文化共生型都市空間」「チュニスの都市保全協力」「フランスの美しい村制度と多良間村」などです。

2. 開講曜時限

毎週月曜 1、2 限（09：00-12：00）および金曜の 7、8 限（18：30-21：30）に開講。

3. 履修要件・入ゼミの方法

中東・北アフリカを初めとするフランス語圏の都市に強い関心がある方、あるいは将来、広い意味での都市計画や国際協力、観光といった分野の仕事に就きたい方を歓迎しています。留学希望者にはゼミとしても全面的に支援しています。また、大学院進学希望者は優先的に入ゼミ頂きます。1年間の交換留学を経て4年で卒業し、大学院修士課程の2年間の社会工学の専門教育と就職活動を通して、都市の国際協力に関する広い視野と、都市研究を基本とする専門性を兼ね備えた人材として社会に出て頂きたいと思っています。

文理融合型の研究を進めますが、国際総合学類の学生は、海外への視点や行動力、あるいは語学などの強みを活かしています。数学は必須ではありませんが、実際に都市を歩いて、建築や空間を見る目をしっかりと養います。技法として、GIS（地理情報システム）、フォトショップ、イラストレーター等を習得します。また、入ゼミ後、社工共通の都市計画関係科目や世界遺産専攻等の関連科目を履修頂きます。ゼミ見学をご希望の際は、教員あてにメールでご相談ください。

4. その他

教員連絡先：matsub@sk.tsukuba.ac.jp

ゼミ HP : <http://infoshako.sk.tsukuba.ac.jp/~matsub/>

研究室 Twitter アカウント : https://twitter.com/matsub_pro

研究室 Facebook ページ : <https://www.facebook.com/groups/371902826224617/>